

連日賑わい 力作アートを堪能

第14回ながしま造形美術展

2年に一度の、第14回ながしま造形美術展が10月22日、太陽の里ピクニック広場周辺で開幕しました。

この美術展は、町民が一丸となって取り組む長島最大のイベント。今回は合併5周年記念として期間を一週間延長し、約1カ月間開催されることとなり、「アートの島」を堪能しようと呼び連日大勢の来場者が訪れています。

会場では、島内各集落や小中学校、PTA、団体などが趣向を凝らした123作品が所狭しと出展されました。今回も小ぶりなものは1歳から大きいものは8歳までさまざま、個性の光る大作が並び会場は屋外美術館と様変わりしました。

同日、午前10時から開会式が開かれ、濱田重則実行委員長は「町民総出の祭り。作品

を見てもらえば分かる」とおり地域の絆と地域づくりに生かされている。期間中大勢の人に見ていただきたい」とあいさつ。川添健町長は「各種団体の力作を見ると長島町民の力はすごいものだと感じる。これからも一致団結し、長島をもっと盛り上げ自慢できる町にしたい」と述べました。

その後、大作を一目見ようと待ちに待った観客らは迫力のアートを目の前にし、「感動」の言葉があちこちで聞こえていました。

また会場内ではお気に入り作品の前で思い思いに写真撮影など行っていました。

あわせてこの日は、出品された作品の審査会も行われ、「一般の部」「PTAの部」「学校・幼稚園の部」の3部門で、各賞が決定しました。